



百富士

都留文科大学附属図書館所蔵

叙

續物  
國世日

芙蓉之岳高峻勝際甲於天  
下絕頂接天盛夏封雪故古  
今画家無不寫之以供展翫  
者其間名於世者亦不復鮮  
矣或圖春景或畫秋景後某

駿東郡  
源三郎  
大平村

宮路  
家藏



山而望者從某野而觀在帶  
月雲若帶風雨者帶朝霞去  
帶暮靄若無不具體而出者  
唯是齒背之挂也天也各地  
異觀四時殊景朝暉夕陰烟  
雲出沒容態交遷奇觀世窮

在畫家亦致意于此古予受人  
君錫風流佳致所技兼善畫  
居其一焉壯好幸游足跡半  
天下以故每觀芙蓉空色景於  
各處即就揮毫焉漸次累功  
殆盈百數比之諸家豈惟每

體有美趣所謂該象未嘗圖  
及者亦如取諸囊底至善尺錫  
所為專在於師造化而已今也  
悉命之剗厠氏并取古今所  
寫其殊絕而得意者摹擬以  
雜其間因諸當世作者各就

其圖而題詠之嗚呼俾覽者  
不出戶庭烟雲山色彷彿在  
於几席間無濟勝之具而有  
登臨之樂豈不愉快乎其或  
欲圖寫其宏勝景者取途於  
此亦以難為之有是為序



丁亥秋日

柳洲田謙之題



高き木一、手お筆此紙ハ  
り程の大和乃強くかまや  
わーてえれとの葉色は海の  
と、柳岸青芝山農志をく  
帯ふにいせは波あらーあふ

東都乃隱士河村也昔に  
造る画よりそのまじきまじ風雅の  
く心所れは武藏呼ぶるまじ  
始てて由る此湯はう杖波き  
まじ見坂より馬城と見え  
風景を寫す画より好むしとら

おけ甲斐録録農裏や由士にいさ  
とて我々金山のこれせり  
おま宿の遠く然れ晴天乃  
七十二芙蓉を幾くいし  
色への如にけりま僕持れ合  
意知れりこれとら



又仰々孝信之より此序と  
申へ高辞せん

芙蓉峯隱士藤松堂主書



百留士此序

和修之條繪之字一也之是之なる名之なり  
中中も夏もぬ君四もひやも人の園海くきて  
名も百留士より採れせしは世に多く是揚信見申さか  
し此中へ人採合せらる也画と又ささるるなり此條は字  
繪より代ひききとを世採合名取の字しきと  
去秋の冬和くり採りあらしらるる也一はれ

後の画工ありてかきそとてりるまの地いけしき京がら  
りてしと藤一ゆきやまは京の画したるおゆとて世見  
その家此法則のまほあはれり世の画とまふかたけ  
あはれ性價依りてそののうかきこの名おゆるるるも  
かきとてし京のゆきとてふまかき又まはるる  
きぬぬはまきとてむのこりてしとて二席の  
主人もやとてむゆきとてむかきとてむ

はくしとてあまの橋をよみてゆきとてむのこりてし  
りあはれ京の面影のむらじかきとてむとてしとて  
けしとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき  
りてしとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき  
あはれとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき  
かきとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき  
ゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき  
ゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆきとてむゆき



とう梓のさうと南のさう一帳とあるがふとふ  
 門のさうとさうのさうとさうのさうとさうのさうと  
 して厚のさうとさうのさうとさうのさうとさうのさうと  
 成るさうとさうのさうとさうのさうとさうのさうと  
 中へ耐さうとさうのさうとさうのさうとさうのさうと  
 のわさうとさうのさうとさうのさうとさうのさうと

萬のさうと

百富立

武藏野



中ふ

りま

あふ尾花や

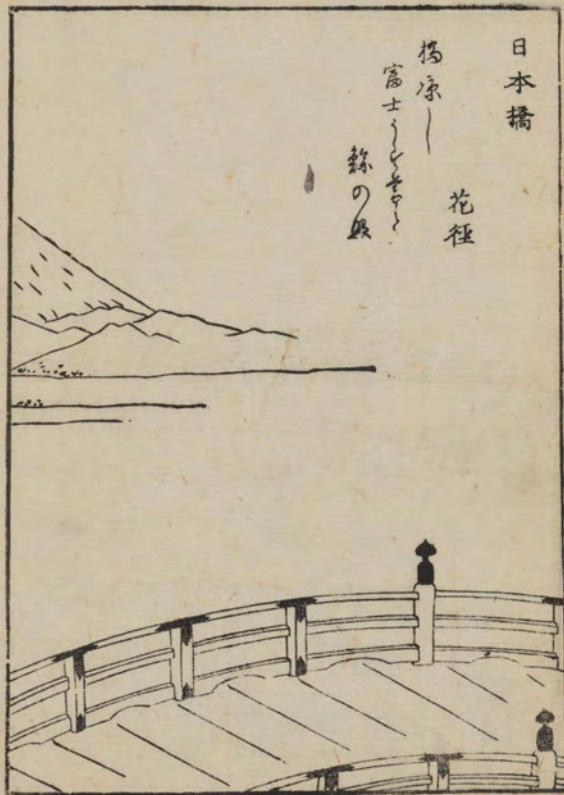
秋の富士

舊村主

素齋







日本橋

花徑

揚涼

富士

錦の原

駿河町

富士原

橋中小径

風城下

朱雁







御茶水

富士の

ふもと

の

水

堂



駿河臺

富士のねや

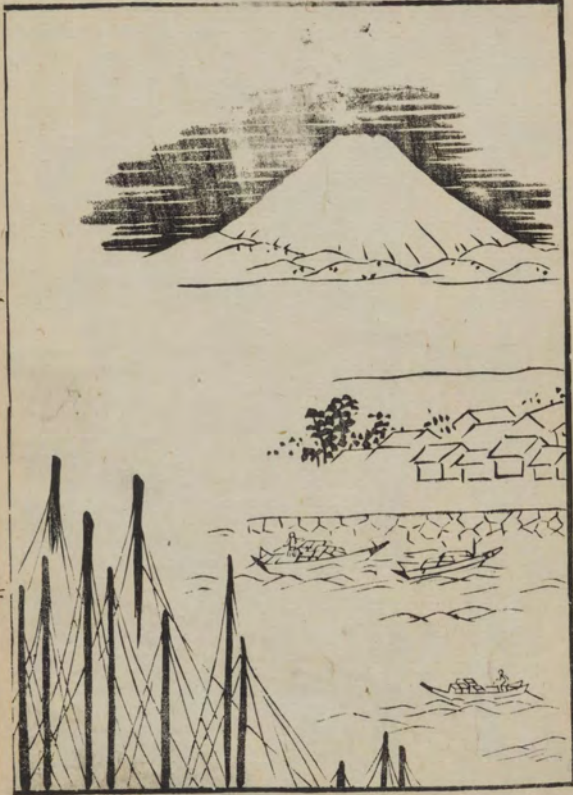
さうとちの

まゝの

元来



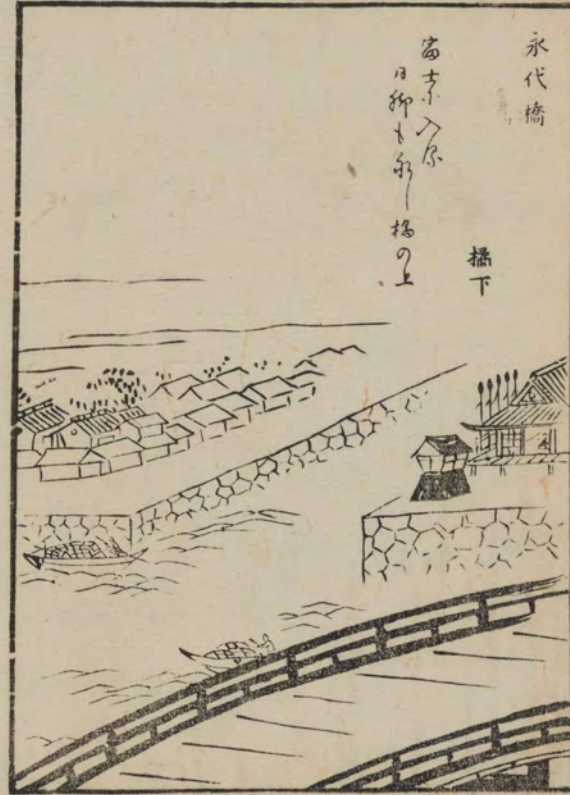




永代橋

富士山  
月柳も形橋の上

橋下





新大橋

揚杭の泉之

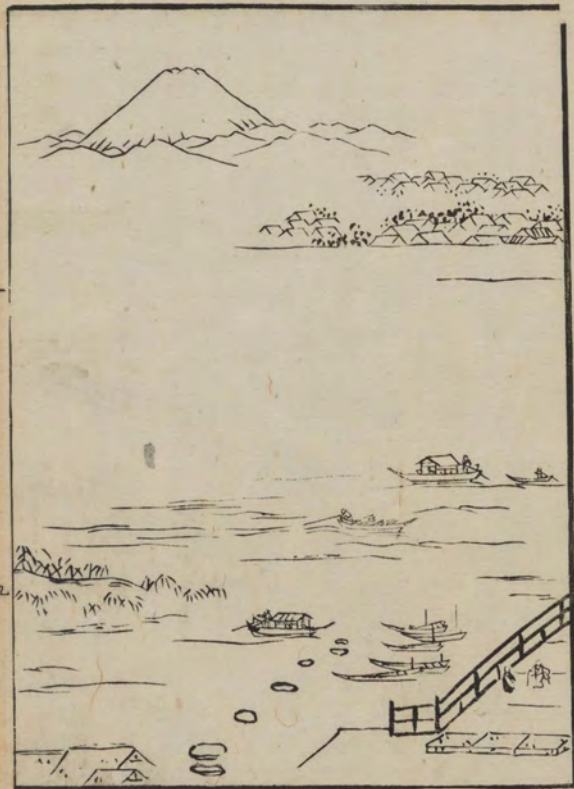
同く小

富士や

舟と舟









石川島

芳晴れ

不二と後り

しづか

鷺洲







三園山

富士と幽子  
うけとねの  
ふきつ  
春江









日本堤

風と富士と海とや

雲の作

蘭宅

あまのこ

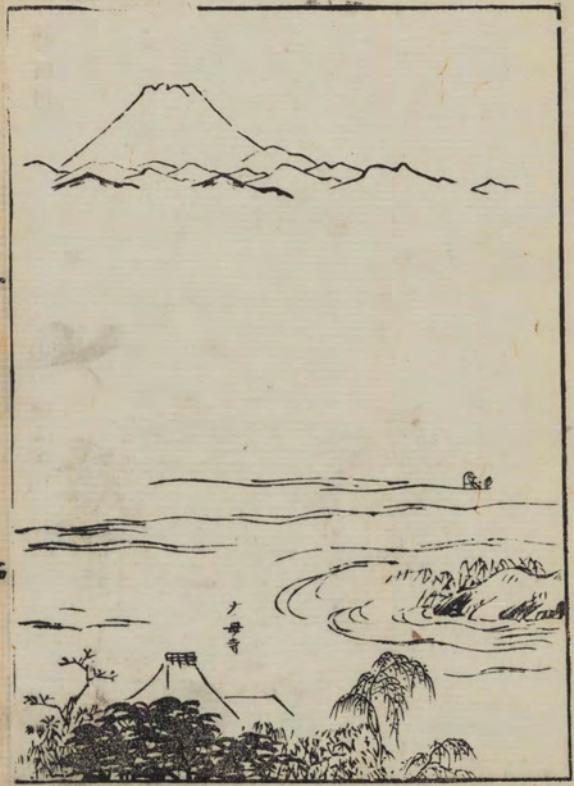
徳也や室士の

ふかふか

草草亭

眠中





隅田川

富士の裾のちか  
 ーくーくーくー  
 ヤー園ヤの  
 ーんーんーん  
 黙守庵  
 宗朝



関屋里



綾瀬橋



綾瀬  
東の  
のや  
富士の  
香  
千里



綾瀬橋



共

飛鳥山

花のまち

和名も深し

富全はら

義松

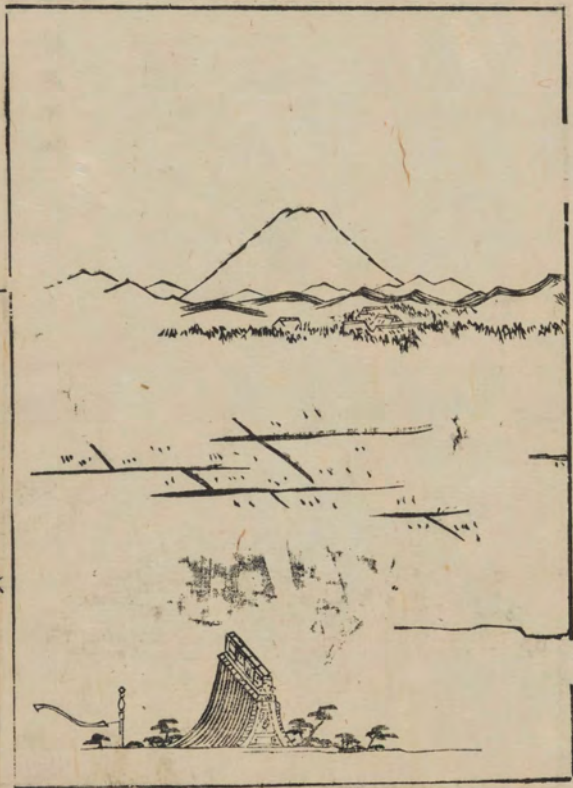






橋大橋

作  
 高き小入りの  
 ありては  
 柳至



六



羅漢禪林

富士山向く

市街小島

三輪寺

大来





小松川 葛西

ふるさとの

里をしの

小松川

百治



松間

秀出玉芙蓉不厭滿松樹  
綠葉與山光相映自成趣

駿東 壘崎春稿







橋下

富士夕々少や橋の下 花口



去の極  
 併り候

ふ二の羽

上毛沼田

虚實巻

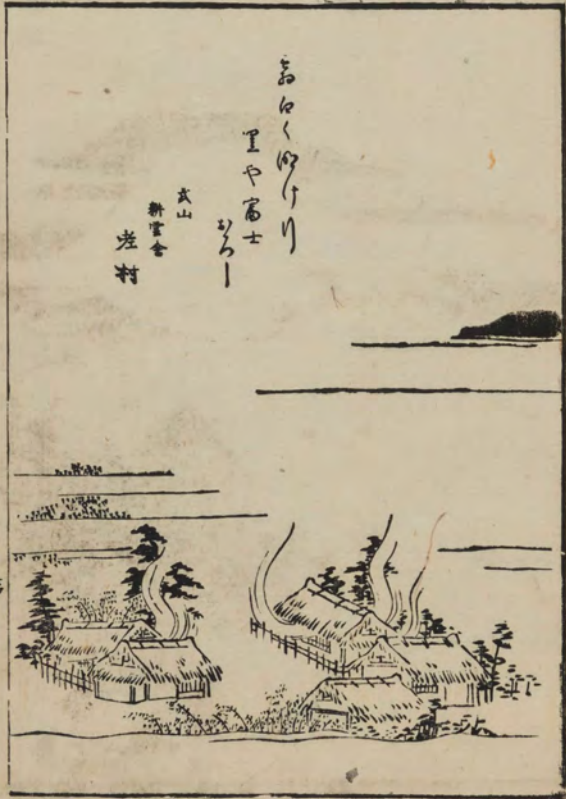
春路



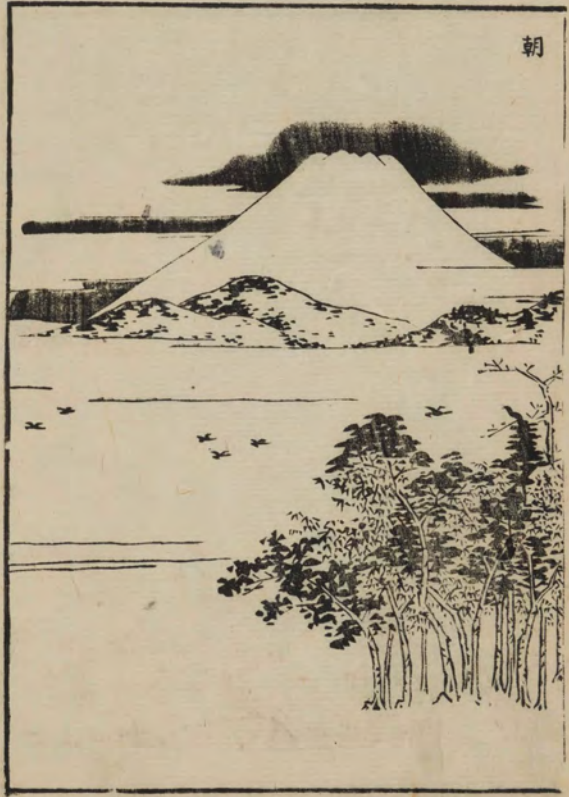
麥畑





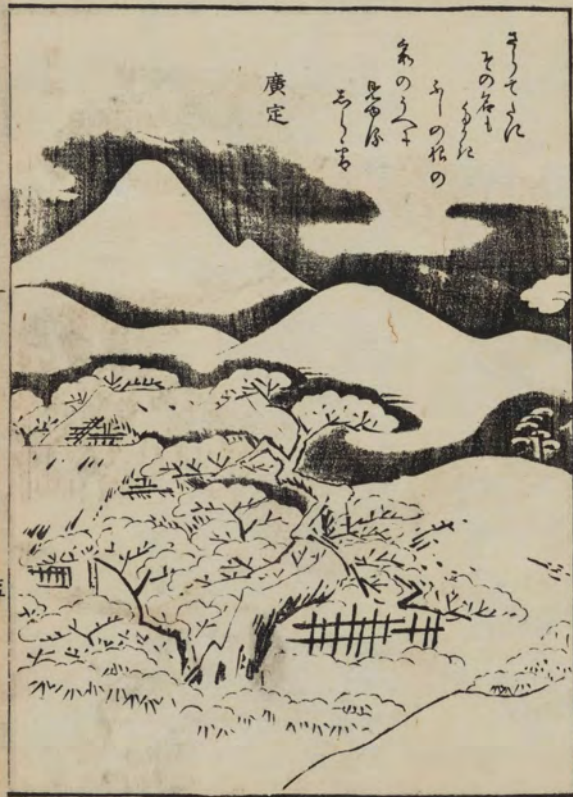


高白く何ヶ月  
 里や富士  
 山  
 新堂舎  
 庄村



朝





廣定

千つてよ  
 その名も  
 千つてよ  
 千つてよ  
 千つてよ  
 千つてよ



雪後



晩景

夕立の入りや

和陽 昔菴

富士のふもと

越か 古岳

白のふもと

鳥のふもと





風

風の世々の介々

富士の麓

宇波権

浙江



窓中



層々修み字も河を忘の富士 再蝶

